

令和7年度青森県立保健大学

一般選抜前期日程

看護学科

# 小論文試験問題

10:00～11:30 (90分)

〈注意事項〉

- 1 試験開始の合図があるまで、問題冊子を開かないでください。
- 2 この問題冊子には、問題用紙が2ページあります。
- 3 落丁・乱丁がある場合は、手を挙げて試験監督者に知らせてください。
- 4 解答用紙には、下記の記入例により **あなたの名字の頭2文字及び受験番号を忘れず**に記入してください。
- 5 問題冊子及び下書用紙は持ち帰ってください。

〈解答用紙への記入例〉

(例1)

頭2文字	ス	ズ	(鈴木:スズキ)
------	---	---	----------

(例2)

頭2文字	ザ	イ	(財前:ザイゼン)
------	---	---	-----------

(例3)

頭2文字	キ	ツ	(吉川:キツカワ)
------	---	---	-----------

受験番号	1	1	1	0	0	1
------	---	---	---	---	---	---

# 令和7年度一般選抜（前期日程）小論文試験問題

## 看護学科

問題 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

グローバル化が進む中で、それまで定着していた終身雇用、年功賃金や新卒一括採用等に基づく日本型雇用慣行が変化し、非正規雇用労働者が増加するなど、雇用環境が大きく変化しています。また、人口減少、少子高齢化、核家族化、未婚化・晩婚化が進み、地域社会を支える地縁・血縁といった人と人との関係性・つながりは希薄化の一途をたどっています。このような社会情勢を背景として、職場内、家庭内、および地域内において人々が関わり合いを持つことによって問題を共有しつつ相互に支え合う機会が減少し、人々が「生きづらさ」や孤独・孤立を感じざるを得ない状況が生じていることが指摘されています。

2020年以降の新型コロナウイルス感染症拡大は、外出自粛などによりそれまでの社会環境の変化等で孤独・孤立を感じやすくなっていた社会に内在していた孤独・孤立の問題を顕在化、あるいは一層深刻化させる契機になったと推察されます。

例えば、自殺者数は2020（令和2）年に総数で21,081人となり、前年比912人増で11年ぶりに増加に転じました。配偶者暴力（DV）相談件数は2020年度で190,030件、前年度と比べると70,754件増となっています。さらに、児童相談所における児童虐待相談対応件数は2020年度で205,044件であり、前年度と比べると11,264件増となり、小・中学校における長期欠席者のうち不登校児童生徒は2020年度で196,127人、前年度に比べると14,855人増となったことなど、さまざまな事象に影響していると推察されます。

一方、図1は、内閣官房における「孤独・孤立の実態把握に関する全国調査（2021年）」の調査結果から抜粋した年齢階級別にみた孤独を感じる人の割合を示したものです。この結果では、(1) 20歳代と30歳代が最も孤独を感じる人の割合が高くなっていました。（中略）

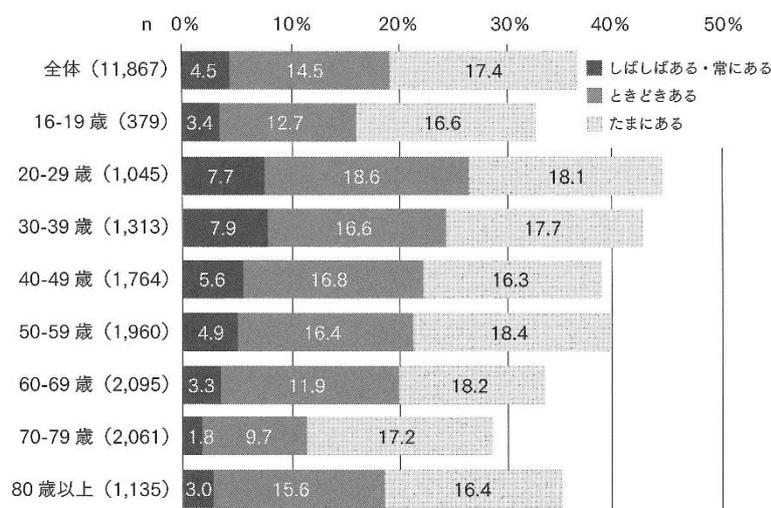


図1 年齢階級別孤独感（直接質問）

他方で、このような孤独・孤立の状況は、心身の健康に悪影響をもたらすことが指摘されています。イギリスでは「孤独は現在の公衆衛生上、最も大きな課題の一つ」として、2018年に世界初の孤独問題担当大臣が誕生しました。わが国においても、新型コロナウイルス感染拡大の影響が長期化することにより、孤独・孤立の問題がより一層深刻な社会問題となっていることを受けて、政府は、2021年2月に孤独・孤立対策担当大臣を指名し、同大臣が司令塔となり内閣官房に孤独・孤立対策担当室を立ち上げ、政府一丸となって孤独・孤立対策が検討され（中略）、2021年12月に「孤独・孤立対策の重点計画」が策定されました。

この孤独・孤立対策の重点計画には、次のように大きく四つの孤独・孤立対策の基本方針が掲げられています。

- ①孤独・孤立に至っても支援を求める声を上げやすい社会とする
- ②状況に合わせた切れ目のない相談支援につなげる
- ③見守り・交流の場や居場所づくりを確保し、人と人との「つながり」を実感できる地域づくりを行う
- ④孤独・孤立対策に取り組むNPO等の活動をきめ細かく支援し、官・民・NPO等の連携を強化する

（中略）

今後、地方自治体、福祉と教育、福祉と保健医療、雇用・就労、住まいとの連携など各分野の取り組みを有機的に連携させて分野横断的に、孤独・孤立の問題を抱えている、あるいは孤独・孤立に至りやすい当事者や家族等を中心に置いた包括的支援体制を構築していくことが求められます。

孤独・孤立の問題を抱えている、あるいは孤独・孤立に至りやすい当事者や家族等は、全世代に及ぶものであり、当事者や家族が容易に支援につながれるような社会にするには、今後 (2) 長期的な取り組みが必要 と言えます。地域社会を支える地縁・血縁といった人と人との関係性・つながりが希薄化している現在において、地域社会における包括的支援体制の構築は急務です。

（出典：横山美江著『「孤独・孤立」をめぐる社会背景と政策』、松本俊彦編『孤独と孤立』、株式会社日本看護協会出版会、2023年、pp.53-63より抜粋。ただし、出題の都合上、縦書きの原文を横書きにし、文章の一部を省略・改変している。）

問1 2020年に自殺者数や配偶者暴力相談件数などが増加した背景を筆者はどのように考えているか。本文中の言葉を用いて、60字以上80字以内で説明しなさい。

問2 下線部(1)の理由について、本文の内容を踏まえながら、あなたの考えを160字以上200字以内で述べなさい。

問3 下線部(2)について、本文の内容を踏まえながら、あなたが考える取り組みの内容と、その取り組みが必要な理由を640字以上800字以内で述べなさい。